

《資料①》

令和元年度  
加古川市上下水道事業運営審議会 資料  
(水道事業)

加古川市上下水道局

令和元年 12 月 13 日 (金)

# 平成30年度 加古川市水道事業会計 決算概要

## (1) 業務量

	30年度	29年度	増減	増減率(%)
給水人口	255,270人	256,675人	△1,405人	△ 0.5
配水量	27,388,625m <sup>3</sup>	27,492,558m <sup>3</sup>	△103,933m <sup>3</sup>	△ 0.4
有収水量	26,080,813m <sup>3</sup>	26,327,534m <sup>3</sup>	△246,721m <sup>3</sup>	△ 0.9
有収率	95.2%	95.8%	△0.6ポイント	—

## (2) 決算総括 (3条) ※ ( ) 内は税込 (単位：千円・%)

	30年度	29年度	増減	増減率
事業収益	5,227,756 (5,619,394)	5,236,590 (5,632,443)	△ 8,834 (△13,049)	△ 0.2 △ 0.2
事業費用	4,398,781 (4,655,105)	4,420,912 (4,753,606)	△ 22,131 (△98,501)	△ 0.5 △ 2.1
差引	828,975 (964,289)	815,678 (878,837)	13,297 (85,452)	1.6 9.7

## (3) 純利益の状況 (税抜) (単位：千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
純利益	856,443	877,980	921,368	815,678	828,975

## (4) 決算総括 (4条・税込) (単位：千円・%)

	30年度	29年度	増減	増減率
資本的収入	1,469,974	1,335,336	134,638	10.1
資本的支出	3,492,137	2,429,830	1,062,307	43.7
差引	△ 2,022,163	△ 1,094,494	△ 927,669	84.8

## (5) 補填財源 (単位：千円)

項目	30年度	29年度	差額
過年度分損益勘定留保資金	1,408,600	931,335	477,265
当年度分損益勘定留保資金	278,250	0	278,250
消費税調整額	135,313	63,159	72,154
建設改良積立金	200,000	100,000	100,000
計	2,022,163	1,094,494	927,669

## ビジョン指標の進捗一覧(水道事業)

方針	目標	指標名	平成29年度	現状 (平成30年度)	中間目標値 (令和5年度)	最終目標値 (令和10年度)
安全	安全・安心な水づくり	水質基準不適合率	0%	0%	0%	0%
	水道水の品質の向上	平均残留塩素濃度	0.41mg/ℓ	0.31mg/ℓ	0.40mg/ℓ	0.40mg/ℓ
		最大カビ臭物質濃度 水質基準比率	80%	30%	40%	40%
強靱	施設の更新・耐震化	浄水施設の耐震化率	12.1%	12.1%	12.1%	78%
		配水池の耐震化率	20.8%	21.5%	20.8%	100%
	管路の更新・耐震化	基幹管路の耐震化率	22.5%	24.2%	36%	50%
		配水支管の耐震化率	26.6%	27.3%	28%	30%
	危機管理体制の構築	上下水道BCPに基づく訓練 の実施回数	0回/年	2回/年	2回以上/年	2回以上/年
		災害用応急給水栓	1箇所 (平成30年度)	1箇所	25箇所	25箇所
	施設の機能維持	有収率	95.8%	95.2%	95.0%以上	95.0%以上
持続	持続可能な経営	経常収支比率	118.7%	118.4%	100%以上	100%以上
		料金回収率	97.8% (110.7%)	97.7% (110.7%)	100%以上	100%以上
	お客さまとの コミュニケーション	広報誌発行回数	0回/年	1回/年	2回/年	2回/年
		アンケートの実施	0回/年	0回/年	定期的に実施	定期的に実施

※ ( )は経常費用から県水処理受託収益を控除して給水原価を算出した場合

## 【安全・安心な水づくり】・【水道水の品質の向上】の目標におけるH30年度の実績値

指標名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	中間目標 (R5)	最終目標 (R10)
水質基準不適合率 ※1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均残留塩素濃度 ※2	0.48	0.48	0.46	0.48	0.48	0.51	0.46	0.41	0.31	0.40	0.40
最大カビ臭物質濃度 水質基準比率 ※3	20	0	0	20	40	40	50	80	30	40	40

測定月 (H30年度)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水質基準不適合率 (月毎)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平均残留塩素濃度 (月毎)	0.31	0.33	0.30	0.31	0.32	0.31	0.30	0.28	0.29	0.30	0.32	0.31
最大カビ臭物質濃度 水質基準比率(月毎)	20	0	0	20	20	20	30	20	20	0	10	20

※1水質基準値に適合しない検査の回数の割合 : (水質基準不適合回数 / 全検査回数) × 100

※2残留塩素濃度の平均値 : (残留塩素濃度合計 / 残留塩素測定回数)

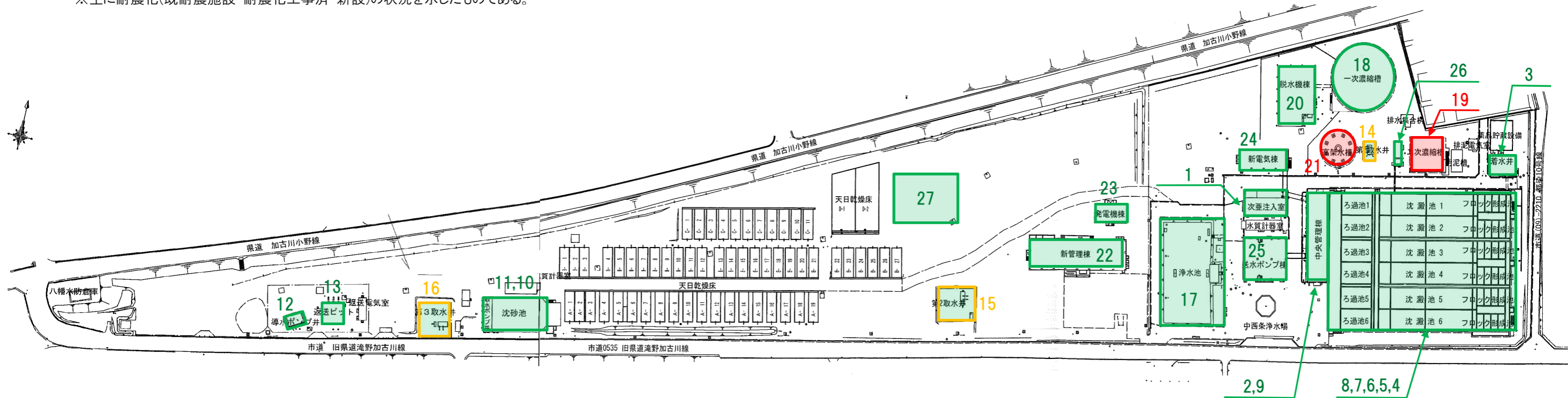
※3カビ臭物質濃度の最大値の水質基準値に対する割合 : (最大カビ臭物質濃度 / 水質基準値) × 100

施設名					
1	次亜注入設備	11	取水ポンプ井	21	高架水槽
2	浄水施設棟	12	導水ポンプ井	22	管理棟
3	着水井	13	返送ピット	23	発電機棟
4	急速攪拌池	14	第1取水井	24	電気棟
5	フロック形成池	15	第2取水井	25	送水ポンプ棟
6	沈澱池	16	第3取水井	26	酸注入設備
7	急速ろ過池	17	浄水池	27	洗浄排水池
8	管廊・浄水渠	18	1次濃縮槽		
9	送水ポンプ井	19	2次濃縮槽		
10	沈砂池	20	脱水機棟		

※主に耐震化(既耐震施設・耐震化工事済・新設)の状況を示したものである。

<中西条浄水場耐震化状況概略図(平成30年度現状)>

※当該図面に表示する施設は概略を示したものであり、すべてを表示したものではありません。



《凡例》

- : 耐震化工事が必要な施設
- : 耐震施設
- : 耐震施設で設備更新が必要な施設

## 基幹管路の老朽化率・耐震化率の推移

(単位:m)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予測)
基幹管路総延長(A)	92,169	92,314	92,314	92,428	93,138	93,138
基幹老朽管路(B)	29,077	30,832	33,840	35,922	44,926	51,927
基幹耐震管路(C)	20,541	20,746	20,746	20,836	22,536	23,069
老朽化率(B/A)	31.55%	33.40%	36.66%	38.86%	48.24%	55.75%
耐震化率(C/A)	22.29%	22.47%	22.47%	22.54%	24.20%	24.77%

※基幹老朽管路は法定耐用年数40年を経過した管路